

令和8年度世界エイズデーポスターコンクール実施要領

1 目的

WHO（世界保健機関）の定める世界エイズデー（World AIDS Day：12月1日）に際し、全国の小学校・中学校・高等学校及び一般を対象に、ポスターデザインを募集するコンクールを実施し、ポスターの制作を通じてHIVとエイズについて考え、これらに対する知識と予防の理解を深めることを目的とします。

2 主催

公益財団法人エイズ予防財団（厚生労働省委託事業）

3 募集区分

作品（ポスター）の募集は、次の3区分により行います。

(1) 小学生・中学生の部 (2) 高校生の部 (3) 一般の部

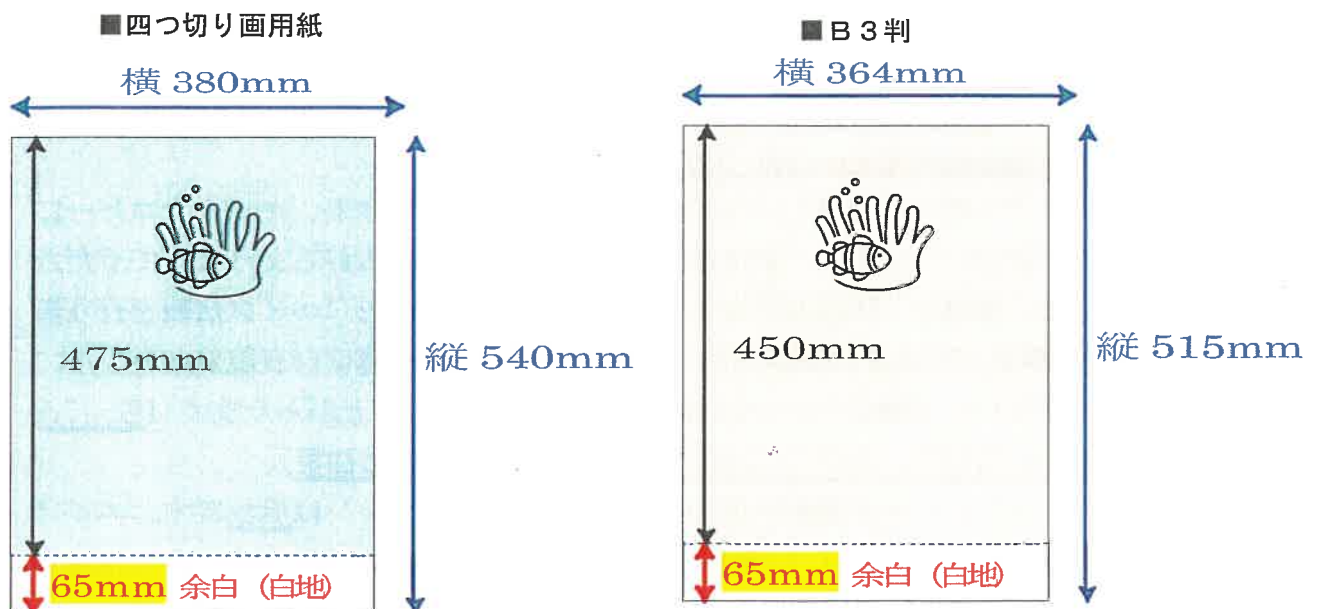
4 募集内容

募集する作品は、一人ひとりがHIV感染予防に取り組むことを訴えるもの、HIV陽性者・エイズ患者への理解と支援を呼びかけるもの、HIV検査の受検を呼びかけるものとしします。

5 応募規格

応募作品は、四つ切り画用紙（縦540mm×横380mm）又は B3判（縦515mm×横364mm）のサイズで、縦向きとし、作品下部に「下65mm（6.5cm）の余白」を残してください。コンピュータグラフィックスによる作品も同条件で設定して印刷してください。

なお、規格外のサイズ、横向きの作品は審査対象外となります。



なお、下記11のとおりキャンペーンポスターに選定された場合は、その余白部分に下記文言等を追加します。また、作品中に当該文言が記されている場合は、原則重複させないように調整します。

- ・「12月1日は世界エイズデー」
- ・「エイズ予防情報ネット <https://api-net.jfap.or.jp/>」
- ・「厚生労働省・公益財団法人エイズ予防財団」
- ・(小さく)「令和8年度世界エイズデーポスターコンクール「〇〇〇の部」最優秀賞作品」(※〇〇〇には各部門名が入ります)

※(場合によっては)「本年度のキャンペーンテーマ」「エイズに関する電話相談」「レッドリボン」「注釈」等

6 応募方法

応募作品は1人1点で、平面のものに限ります。「応募用紙」(別紙様式)に所定の事項を記入し、作品裏面に貼付の上、郵便又は宅配便により送付してください。その際、作品を折りたたんだり、丸めたりしないでください。

なお、応募作品の返却はいたしません。

7 応募上の注意事項

- ① 応募作品は未発表のオリジナルに限ります。それ以外の作品(既発表作品、模倣・類似と認められる作品等)は審査から除外するとともに、受賞決定後であってもこれを取り消す場合があります。また、作者本人の了解無く応募したことによるトラブルについて主催者は関知しません。
- ② 応募者は応募作品に関して、知的財産権等第三者の権利を侵害するものではないことを保証するものとします。第三者の知的財産権を侵害する疑いのある作品については、受賞決定後であってもこれを取り消すことがあります。
- ③ 過去の「世界エイズデー」キャンペーンテーマの使用は控えてください。また、本年度のキャンペーンテーマを応募作品に反映することが可能なときは、テーマの趣旨を十分に理解した上で、テーマの文言は変えることなく使用してください(注: キャンペーンテーマは、決定され次第、エイズ予防情報ネット(<https://api-net.jfap.or.jp/>)で公開予定)。
- ④ キャッチコピー、デザインなどの表現方法は自由ですが、キャッチコピーにはできるだけ“エイズ”“AIDS”又は“HIV”を入れるようにしてください。また、参考1「HIVとエイズの基礎知識」、参考2「エイズ広報を行う際の留意事項(不適切な表現等)」を参照し、誤りや不適切な表現がないようにしてください。抵触するときは審査時に選外となることがあります(注: “AIDS”と“HIV”はすべて大文字表記。誤字・脱字に注意)。
- ⑤ HIVとエイズへの理解と支援の象徴“レッドリボン”は赤色です。エイズ予防情報ネット内のサイト(<https://api-net.jfap.or.jp/lot/whatRedribbon.html>)

から画像データをダウンロードし、応募作品に使用してかまいません。

⑥ 受賞作品の著作権は、主催者に帰属するものとします。

8 応募締切日

令和8年9月3日(木) (当日受付印有効)

9 応募作品送付先

〒103-0007 東京都中央区日本橋浜町 3-35-5-504 (オフィス 30)

株式会社アドメディア内

「世界エイズデーポスターコンクール」宛て

(電話番号 03-3527-2020)

10 審査・選考及び表彰

① エイズ予防財団ポスターコンクール審査会において、HIVとエイズに関する正しい理解、HIV感染予防、HIV検査の周知、HIV陽性者・エイズ患者への理解と支援、多様性の尊重等の視点から、応募作品のキャッチコピーやメッセージ等の正確性、表現の適切さ、ポスターとしての完成度・デザイン性・メッセージ性・インパクト・期待できる効果等について審査を行います。

② 審査会では、上記の審査を経て、募集区分ごとに次のとおり受賞作品を選考します。ただし、「該当なし」となる場合もあります。

(1) 最優秀賞 1点 (2) 優秀賞 2点 (3) 佳作 数点

③ 審査・選考結果はエイズ予防情報ネットで発表するとともに、受賞者には、賞状及び副賞を贈呈します(10月予定)。受賞者名・所属学校名・受賞作品画像はエイズ予防情報ネットに掲載します。

【エイズ予防財団ポスターコンクール審査会】

審査員長 中島邦信 元 公益社団法人ACジャパン常務理事

審査員 川畑千種 文部科学省総合教育政策局健康教育・食育課
健康教育調査官

何 英二 元 株式会社電通クリエイティブ局
クリエイティブディレクター

都丸雅明 元 AAA運営事務局事務局長

灰 来人 グラフィックデザイナー

認定NPO 法人魅惑的倶楽部・福岡コミュニティーセンターHACO 職員

notAlone Fukuoka HIV陽性者交流会代表

松本かおる 厚生労働省健康・生活衛生局感染症対策部

感染症対策課エイズ対策推進室室長補佐

(敬称略。五十音順)

11 キャンペーンポスターへの使用等

- ① 審査会において各募集区分の最優秀賞に選考された作品（計3点）のうち1点を本年度の世界エイズデーキャンペーンポスターとして使用します。
- ② キャンペーンポスターには、必要に応じて、厚生労働省、エイズ予防財団等の文字情報が付加されます。また、作品の一部を修正することがあります。
- ③ 各受賞作品は、「世界エイズデー」（12月1日）、「HIV検査普及週間」（6月1日～7日）等における予防啓発活動に使用するほか、HIV感染予防の啓発普及パンフレット、チラシ、グッズ等のデザイン（非営利目的のみ）、雑誌等への掲載広告に利用することがあります。
- ④ 主催者等が受賞作品を利用して広報用ポスター、パンフレット等を作成する場合、所属学校名、氏名を掲載することがあります。
- ⑤ 受賞作品のポスター画像はエイズ予防情報ネットに掲載し、ダウンロードフリーとします。

12 問い合わせ先

公益財団法人エイズ予防財団 事務局

電話 03-5259-1811

(別紙様式)

令和8年度世界エイズデーポスターコンクール応募用紙

(提出日： 月 日)

募集区分 (該当する番号を○で 囲んでください)		1 小学生・中学生の部		
		2 高校生の部		
		3 一般の部		
応募者	ふりがな			
	氏名			
	年齢	歳	学年、組	年組
	住所	ふりがな		
		漢字		
		ふりがな		
漢字		(〒 -)		
電話番号				
所属学校	ふりがな			
	学校名			
	学校の所在地	ふりがな		
		漢字		
		ふりがな		
		漢字	(〒 -)	
学校の電話番号 担当者氏名 メールアドレス				

- 注：1 提出日現在を基準にして所定の事項を記入の上、この応募用紙を作品裏面に貼付してください。
- 2 「所属学校」の所在地・電話番号を記入した場合は、応募者個人の住所・電話番号は記入不要です。ただし、その場合も「学年、組」欄は記入してください。
- 3 学校に所属しない方は、「所属学校」欄は空欄としてください。

(参考1)

HIVとエイズの基礎知識

◆ エイズとは？

- ① エイズ (AIDS = Acquired Immunodeficiency Syndrome) は、日本語にすると「後天性免疫不全症候群」といい、HIV というウイルスに感染して起こる病気です。
HIV に感染してもすぐにエイズを発症するわけではなく、また、風邪に似た症状が出る場合がありますが、HIV 検査を受けなければ感染しているかどうかは分かりません。
病気とたたかう抵抗力 (免疫) が低下して発症するまで数年と、ある一定期間自覚症状のない時期が続くことが特徴です。
- ② HIV の感染経路は限られているので、感染を予防することができます。
- 感染経路
- 性行為 (異性間・同性間) による感染
 - 血液を介しての感染 (注射器具の共用など)
 - 母親から赤ちゃんへの母子感染

*ポイント (伝えたいメッセージ)

- ・ 予防することで HIV 感染が防げること。
- ・ 予防のためには、感染経路についてきちんと理解すること。予防のためにはどのような行動が大切かを理解すること。
- ・ ひとつとではなく、自分のこととしてこの病気を考えることが大切。

◆ 世界と日本のエイズ

- ① 国連合同エイズ計画 (UNAIDS) の発表によると、2024年末現在で約4080万人の HIV 感染者とエイズ患者が世界中でこの病気とたたかっています。
- ② 日本における2025年の HIV 感染者及びエイズ患者の新規報告数 (速報値) は、890 件であり、前年に比べ減少したものの、今後の状況を注視していく必要があります。

*ポイント (伝えたいメッセージ)

- ・ HIV 感染が身近な問題であること (世界でも日本でも)。

◆ 検査と治療について

- ① 検査：HIV 検査は、全国の保健所等で「無料・匿名（名前を言わずに）」で受けることができます。
- ② 治療：いまのところ、からだの中の HIV を完全にとりのぞく治療法はありません。ただし、医療の進歩によって、発症する前に多剤併用療法を始め、きちんと服用すれば、発症を遅らせ、他の慢性疾患と同じように入院することなく定期的に病院に通うことで、コントロールが可能になっています。つまり、早期発見による早期治療が重要です。

*ポイント（伝えたいメッセージ）

- ・「HIV 検査は、全国の保健所等で無料・匿名で受けることができる」のに、その情報を知らない人が多い。みんなに知ってもらい、もっと活用してほしい。
- ・検査を受けることは、自分のためにも、相手のためにも大切なこと。自分のからだの状態を知ることは、自分をケアしていること。
- ・感染しても、早期に分かれれば、適切な治療と継続により、仕事や勉強など、感染する前と変わらない生活を送ることができる。また、さまざまな専門家や NGO が支えてくれ、一緒に HIV やエイズと向き合ってくれる。一人ではない。
- ・「エイズは怖い」という、誤った、過去のイメージから HIV 感染者への偏見・差別はまだ根強く残っている。正しい知識を身につける必要がある。HIV 感染者・エイズ患者も周囲からの偏見・差別が怖く、なかなかまわりに本当のことを告げることができない。一人ひとりが HIV 感染症とエイズを正しく理解し、この課題と向き合うことによって、偏見・差別が解消され、みんなで話し合える場をつくることができる。

◆ 世界エイズデーとレッドリボンについて

- ① 世界エイズデー：世界的レベルでのエイズまん延防止とエイズ患者・HIV 感染者に対する差別・偏見の解消を図ることを目的として、12 月 1 日が“World AIDS Day”（世界エイズデー）と定められました。この日を中心に世界各地でエイズ予防・支援のためのイベントなどが行われています。
- ② レッドリボン：“レッドリボン（赤いリボン）”は、エイズに関する理解と支援のシンボルマークです。レッドリボンは、あなたがエイズに関して偏見をもっていない、エイズと共に生きる人々を差別しないというメッセージです。
このレッドリボンの意味を知り、レッドリボンを身につけることによって、エイズをみんなで考えることが大切です。

(参考2)

エイズ広報を行う際の留意事項（不適切な表現等）

患者・感染者を傷つけたり、差別、偏見を助長するような表現は避ける

◇エイズ撲滅、エイズ抑圧、エイズ根絶

→ 患者・感染者が傷つく表現なので避ける。「HIV 感染症／エイズのまん延の防止」「患者・感染者に対する差別と偏見の解消」などの表現が望ましい。

◇エイズをたたきのめす、やっつける

→ 患者・感染者を排除しようとするイメージを与える表現なので避ける。

◇エイズ汚染、エイズ禍、ウイルスをまき散らす

→ 患者・感染者が社会を汚しているというイメージを与える表現なので避ける。

◇理性ある行動をとるべき、節度ある行動をとるべき

→ 患者・感染者はだらしない人というイメージを与える表現なので避ける。

◇ハイリスクの人、エイズ多発国、エイズ先進国

→ 危険なのは、「人」ではなくハイリスクな「行動」。また、HIV 感染の流行について「多発国」「先進国」という表現は不適切なので避ける。

◇（感染すると／発病すれば）必ず（100%）死ぬ

→ 近年、治療の進歩により、HIV 感染症が早期に診断されれば、服薬を続けることでエイズ発症を抑えることが可能である。また、エイズを発症したとしても、適切な治療を受けることで「必ず（100%）死ぬ」とは限らず、適切な表現ではないため避ける。

◇エイズの恐怖・魔の手、忍び寄るエイズ

→ いたずらに恐怖心をあおる表現は避ける。

◇ホモ（ホモセクシュアル）

→ 蔑称として使われることが多い。「MSM*」「男性同性愛者」「ゲイ」などの表現が望ましい。

*MSM (Men who have sex with men) : 男性で同性間性的接触を行う者 (バイセクシュアルも含まれる。)

◇レズ

→ ホモとセットで蔑称として使われている。「レズビアン」「女性同性愛者」などの表現が望ましい。

◇多数との無防備なセックス

→ 相手が多数でなければ大丈夫という誤解を与えるため避ける。

◇コンドームを使うのは男の役割

→ 女性用コンドームの使用もありうること、また、同性間での性的接触もあることなどから、適切な表現ではないため避ける。

